

⇒ 技術士だより

—(社)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター 季刊— 冬季号(平成2年2月5日発行)

◇巻頭言

技術士会の思い出—巻頭言にかえて

【1】技術士会との出会い

私が技術士試験に合格したのはS.34年11月のことでしたが、公務員だったため入会したのはS.40年頃だったと思います。その頃は轟さんが全体を取り仕切っておられた時代で、間もなく私も幹事のはしくれに加えて頂きましたが、和やかで楽しい会の雰囲気だったように思います。

ただ、それまで土木現場一筋に土と水を相手にし、構造物を作り時にはその設計を手掛け、また同じような考え方の仲間と日常を共にしてきた私にとって、お互いに先生、先生と呼び合う会話はどこか場違いの感じて馴染めないものでしたし、また当時何度かお逢いした本部の役員の方々や、会事務局の方々の態度は何となく取り澄ました風に写り、地方から出ていった我々を見下したような気がして(私の僻目でしょうが)私にはあまり好きになれない空気でした。しかし、とは言うものの技術士会は比較的新しい組織であり、これから大いに発展させなければいけない。そのためにはエリート集団であるという証(あかし)やプライド、また若干の背伸びをしても集団の力を誇示し、政治的な動きをすることも必要であることもある程度分かる気がいたしました。

先般もある政治評論家が「今度の海部首相は今までの田中、中曽根などと違って、権力というものを微塵も感じさせず爽やかでよい。しかし何か足りない。やはり貫禄不足と言うべきか」と言うようなことを言っていました。とかく民主主義の社会というのはその処世が難しく、時には勿体振った態度やある程度の誇張も必要なのでしょう。

結局は本人の地で行くということになるのでしょうか、野暮天の小生にはどうも技術士会の当時の空気は肌合いが合わないというのか好きになれませんでした。

そんな風な私でしたが、轟さんのお人柄に惹かれ技術士会の会合にはよく出して頂き、

小中番 寛二(元支部長・顧問)

ノ 巖島や霧島神宮、北海道とあちこち楽しい思い出があります。

【2】資格士法について

当時から技術士会会員の増強が問題になりそのためには会員の受けるメリットの確立ということが叫ばれ、医者や弁護士のように何とかして資格士法にもっていけないかと言う声がありました。私なども最初はその方向にもって行けないものかと思ったものですが、段々これは難しいことだな、どうも無理があるなと思うようになりました。

(1) 技術士会は多くの業種の技術者を網羅しており、もし資格士法ということにすれば「万民は職業自由の権利を有す」という憲法の理念に反することになりかねない。

(2) 日本の社会は「タテ社会」と言われているように、ヨコとの連絡、調整が兎角ギクシャクしてうまく行かない。

技術士会会員は全て科学技術庁の所管におかれており、例えば建設部門の技術士が難しい問題を建設部門に訴えても痒い所に手が届くようには行かない。

また、もし資格士法になれば科学技術庁の権限が大きくなり過ぎて、占領軍から睨まれた昔の内務省のようになる恐れがある。

(3) 一昨年(S.63年5-6月)我が国の建設コンサルタントが、イギリス、フランス、西ドイツ、イタリアの先進4か国の建設コンサルタントの実情を視察したところによれば、これらの国々ではコンサルタント業務を規制する法律はなく、またコンサルタント業務を営むために必要な個人の資格もイタリアを除いては法的には存在しないとしています。そしてそのイタリアは現実には企業としてのコンサルタントが存在しているが、専門職としてのコンサルタントが企業としてパートナーシップを組むことを禁じていることもあって、建前上はコンサルタント企業は認められていないようです。

日本の場合、ご承知のように建設部ノ

1人でも多くの人会をお勧め下さい

門の技術士に限って申せば、資格士法とまでいかないまでもかなりの所までその恩典を認められております。

しかし、これも測量士、建築士の場合と違って法律で定められたものでなく、建設省通達によるものであり、従ってコンサルタント業として建設省に登録するためには、技術士が一人以上存在することが必要条件となりますが、コンサルタント業を営むことまでを禁じているわけではありません。そしてこのことは技術士会の運動、陳情と言うことよりも、建設コンサルタント業界に無制限にコンサルタント業が増加し、競争が激化することを防止するための自衛の策としての運動によるものと思われます。いずれにしても、国内、国外を問わず自由主義陣営においては職業自由の権利に絡む法律制定は難しいものようです。

(4) 技術士の中でも経営工学、情報処理部門の場合は一人でも商売が出来そうに思いますが、その他の建設部門を始め多くの部門の技術士の場合は、医者、弁護士などの商売と違って多人数のグループで業を営むもので、それだけ資格士法には馴染みにくい性格を持っているように思います。

以上のことを考えますと、意欲はあっても空鉄砲に終わりそうで、つい弓引込み思案となります。

【3】CEクラブについて

CEクラブは確かS.53年頃、当時の幹事の間で話題が持ち上がり実現したのですが、私は反対の立場で加入しませんでした。轟さんも同じような考えだったと思います。やは

り加入しなかったように記憶しています。

(1) 小生の場合、100人ばかりの会社の経営者だったわけですが、厳しい時期で私の持っているエネルギーは、出来るだけ多く会社の経営に注ぐべきである。とてもそんな余裕はないし、もし私がCEクラブに情熱を傾ければそれだけ社員に迷惑をかけることになるそれはとても忍び難いことである。

(2) 採り上げるテーマにもよるでしょうが、寄り合い世帯の数人の技術士が片手間に仕事に取り組んでみても、それは所詮おさなりの成果品となり、立派な作品が出来るとは思えない。

(3) 暫し月日か経って、どなたからだったか忘れましたが、当社支店長姉川氏の加入を懇望され本人も異議ないようでしたので氏の加入を認めました。

しかし企業内技術士のことですから本人にも悩みがあったようですし、小生にとっても尻の穴の小さい話ですが、あまり有り難くないことでした。

勿論CEクラブから応分の報酬があり、それは皆会社の収入とした訳ですが、姉川の力から見ればそれは正にボランティアに近いもので、かなりの苦痛を伴うもののように私には思えました。

以上が、CEクラブと私との関係でしたが、只今では若干異なった考えを持っております。

近頃異業種交流の重要性が云われるようになりましたが、私はこの活動を推し進めるには多くの職種の人々か所属する技術士会が最もふさわしい場であり、そのためにはCEクラブの活動が大きな役割を果たすのでは、……と思うようになったからです。

私 の 提 言 「技術士会の活性化について」

かねて土居支部長から技術士会の活性化についての提言を求められており、私なりにその取りまとめをしようとしていた矢先「技術士」'90年1月号で前田副会長の「会員1万人増加運動に総力を結集しよう!!」というご提言を拝読したところ、かねてから私が支部長に申し上げていたことが網羅されており、

保澤 興 (農業部門)

今更という感じもしたが、敢えて活性化についての所見を申し上げることにする。

技術士会の活性化については、ここ数年論議が重ねられて来ていながら、今一つその効果が挙がらないのは、現在の技術士会が外部に対してアピールする何か欠けているためではなからうか。そこで技術士会を活性化

、するため次のような事柄の実現を目指して
会員の力を結集していく必要があると考える。

1. 技術士会のセールスポイントの確立

未加入者に入会を勧誘するときネックになるのが入会のメリット論である。会員各人が自信をもって入会の勧誘ができるような魅力あるセールスポイントの確立が望まれる。

2. 技術士法の改正

現在の技術士法は単に技術士の呼称法となっているが、これを業務法への転換を計り、登録と技術士会入会が連動するような法改正を急ぐ必要がある。

3. 企業内技術士と専門技術士の協力体制の確立

顧客ニーズの多様化を反映して、企業の受注業務も多様化の傾向を示している。このため受注業務を円滑に実施するために、他部門の技術士のノウハウを必要とすることがある。このような業務に対して、企業内技術士の要請に応じて技術士会が内部の人脈を活用して積極的に対応し、他部門の技術士を相互に活用することによって、企業者を含めて技術士会の存在価値をアピールする機会になるものと考ええる。(株)高崎総合コンサルタント)

日本技術士会近況

1. 平成2年度事業計画(案)

平成元年度第5回理事会(平成2年1月12日)において、平成2年度事業計画(案)が提出され審議の結果、下記の通り承認されました。

記

経済の好況は継続し、これに応じて、開発途上国に対する政府の開発援助は逐年拡充されつつある。一方社会経済における技術の動向を見ると、まず社会経済に占める技術の重要性は、益々増大するとともに、技術全般にわたり、高度化、多様化が進みつつある。

また、従来見られた技術の総合化の傾向は、異業種融合化の要請のもとにその趨勢が一段と加速されつつある。これらの状況は、技術士活動に明るい見通しを与えるとともに、本会の事業活動に前進への意欲を起させるものである。このような背景認識のもとに、平成2年度事業運営にあたっては、その基本的かつ長期の方針を、年来の

- 第一 会員の増強
- 第二 技術士の能力の向上
- 第三 技術士の業域の拡充強化

と定め、この基本方針の下に

- 第一 技術士制度の普及
- 第二 技術士業務の開拓
- 第三 技術士のパーソナルデータの整備
- 第四 会員技術士の本会活動への参加促進

を当面の重要課題として、前年度の成果を十分に活かしつつ、事業の総合的な遂行に積極的に取り組んでいくこととする。

、また、指定試験機関及び指定登録機関としての本会の事業については、技術士試験の広報に努めるとともに、最高級技術者の国家制度に関する事務にふさわしく、迅速、正確、公正を旨として、事業の実施にあたる事とする。(以下省略)

2. プロジェクトチーム設置申請 1件

平成元年度第5回理事会(平成2年1月12日)において審査の結果、設置が認可された。

☆名称 (株)日本技術士会プロジェクトチーム
熊本技術センター

3. Fターム 解析者の募集

(財)工業所有権協力センターでは、特許公報、実用新案公報、公開実用新案公報等の明細書を読解、分析してあらかじめ特許情報に検索キーであるFターム(File Forming Term)を付与する解析者を募集することになりました。

この解析業務は特許公報等の特許情報を精読し、技術的内容、特徴を把握し、マニュアルに従って該当するFタームを抽出し、根拠となるところをアンダーラインで示し、データシートにマークする業務で在宅で作業できるのが特徴です。

現在5月開始分の解析者を募集しておりますので詳細は下記にお問い合わせください。

〒105 東京都港区虎ノ門3-19-13(虎ノ門スピリットビル)

(財)工業所有権協力センター 業務部業務課

TEL (03)459-0201 FAX (03)456-0747

技術士会九州支部・九州地方技術士センター 行事・会合などの報告

1. (株)日本技術士会九州支部第2回九州地方公共団体職員と技術士との合同セミナー鹿児島大会が、平成元年11月14日(火) 盛大に行われました。<後出報告>これも鹿児島県技術士会会員のひたむきな普段の努力の賜物と思います。桜島は燃える。鹿児島地区のより一層の活性化を祈念し期待します。
なお、当日の出席者は公共団体幹部21名 賛助会員15名、九州支部会員70名、計107名でした。次回第3回合同セミナーは宮崎地区でお願いします。
2. (株)日本技術士会九州支部及び九州地方技術士センター発足25周年記念大会は、平成元年11月24日(金) 秋晴れの一日、福岡市ホテルセントラザにおいて、多数の招待者及び会より上田会長始め、遠来の各支部長と参集いただき盛大に行われました。支部・センターも、一つの歴史の過程を通過、後に続く人達の糧になれば幸せだと思います。<後出報告>
なお、当日の出席者は、招待者23名、

本部関係 2名、中・四国支部会員 9名、九州支部・センター会員56名、計90名でした。

3. 第17回九州支部、中・四国支部合同懇談会は支部・センター発足25周年記念大会の前後、平成元年11月24日(金)・25日(土)にご案内の次第により九州支部会員多数参加出席頂き、会場は溢れるばかりで無事予定通り、中・四国村川支部長始め会員のご参加を得、また遠来の北海道・北陸・近畿の支部長さんのご参加で錦上添花を添えていただきまして、懇談は終わりました。惜しむらくは少し時間が足りなくて駆け足のようなでしたが、所期の目的は達したと思います。翌25日は佐賀県技術士会の肝煎りで、吉野ヶ里遺跡の研修見学、久しぶり秋晴れの佐賀平野に足を入れました。<後出報告>
懇談会出席者数は、九州支部51名、中・四国支部 9名、他支部長 3名、計63名。また、研修見学の参加者数は、九州支部15名 中・四国支部8名、他支部長 3名で、佐賀県会員多数の応援案内お世話になりました。

4. 九州支部における県別専門技術士の人数は、現在次のようになっております。

部門	県	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	計
機 械	船 舶	30	1	3	②	0	0	0	36
		1	0	2	0	0	0	0	3
電 気	電 子	31	1	0	②	1	4	3	42
		3	0	0	0	0	0	0	3
化 学	維 属	2	0	0	0	0	1	0	3
		8	0	0	0	0	0	0	8
金 資	源 工 学	16	0	2	0	0	0	0	18
		25	10	16	①④	20	23	20	354
水 衛	生 工 学	52	0	0	4	3	4	1	64
		18	0	1	0	1	1	0	21
農 林	業 産	28	3	3	①②	7	7	7	67
		3	2	0	⑥	0	3	1	15
水 経	営 工 学	0	0	2	0	1	1	1	5
		16	0	4	3	1	0	2	26
情 報	用 理 学	3	0	0	0	0	0	0	3
		45	0	7	⑤	2	0	4	63
合 計		507	17	40	48	36	44	39	731

(行事報告つき)

5. "地球環境問題を語る"

事業委員会において、かねて計画中の会員研修について下記のように開催致します。詳細は後日お知らせ致しますので、奮って多数ご参加下さい。

☆研修題目 地球環境問題について

☆日時 平成2年4月20日(金)15:00~

☆講師 (株)日本技術士会理事

前衛生工学部門部会長

工学博士・技術士 池田 豊先生

6. 平成元年度第2回常任幹事会

☆日時 平成2年2月3日(土)13:30~16:00

☆場所 博多第一ホテル

☆議題

- ・九州支部規約一部改定及び支部・センター細則草案の審議
- ・"技術士だより" 秋季号掲載「私の提言」についての検討
- ・その他

支部・センター委員会だより

◇第1回常任幹事会

日時：平成元年10月28日(土) 13:30~16:00

場所：博多駅東2-1-27 博多第一ホテル

主な議事：

- ① 支部・センター各委員会経過報告
- ② 25周年記念式典表彰者選定について
- ③ 25周年記念誌、技術士だより制作
- ④ 入会、賛助会員、広告について
- ⑤ 平成2年度会員名簿編集
- ⑥ **平成2年度技術士1次・2次試験**
2次：8月22-23日(九大工学部)
1次：10月14日(東和大学の予定)
- ⑦ 活性化委：会員技術抄録編集の件
- ⑧ 事業委：講演会「地球環境問題を語る」

<前掲>

◇支部・センター 第2回 常任幹事会

日時：平成元年11月11日(土) 13:00~16:00

場所：博多駅東-1 サンライフホテル

主な議事：

- ① 25周年記念行事について
- ② 中・四国支部との合同例会について
- ③ 25周年記念誌原稿最終打合せ

◇郷糸谷務委員会(水上委員長)

(1) 第3回委員会(一部既報)

日時：平成元年10月7日(土) 13:00~16:00

場所：博多駅東2-1-27 博多第一ホテル

主な議事：

- ① 25周年記念誌編集について
- ② 会員増強運動(案)
 1. 未加入者に「入会のすすめ」配布
 2. 各地区役員より推薦願う
 3. Man to Man 運動

4. 現在会員数

・(株)日本技術士会会員 (正) 158名
(準) 26名

・九州地方技術士センター会員293名

・未加入者 374名(準、技術士 233名
技術士補 83名 63年度合格者 58名)

(2) その後の活動状況

☆会員増強推進月間 10月~1月 3ヶ月間

☆(株)日本技術士会及び九州地方技術士センター
会員入会のおすすめ、有資格者あて文書
発信 521通

☆1月20日現在センター会員加入者
正会員37名、準会員 5名、計42名

◇郷 試馬会委員会(政野委員長)

(1) 平成元年10月31日、技術士第2次試験

合格者発表。福岡会場合格者 109名

(2) 平成元年12月22日、技術士第1次試験
合格者(技術士補)発表。福岡会場受験者
201名、合格者 61名、合格率 30.3%

(3) 1. 平成2年度技術士第2次筆記試験
8月22日(水)~23日(木)、九州大学工学部講義

2. 平成2年度技術士第1次試験
10月14日(日)、福岡区雑司1-1-1 東和大学

(4) 平成元年度技術士合格者発表

平成2年1月31日(水)

(5) 3月上旬、各地区において

平成2年度技術士受験説明会実施予定

◇郷 事業委員会(笠木委員長)

(1) 会員研修を平成2年4月20日(金)に実施

<前出-行事報告欄->

(2) 関係官公庁へのPR継続、技術士活用のお願書をもって2月陳情の予定。

(支部・センター委員会だより一つづき)

◇センター受馬試験対策委員会

(町田委員長)

(1) 委員会のその後の行事及び活動状況

- ☆ 9/1 ~11/10 □頭馬試験対策講習資料の作成及び講習会準備
- ☆ 11/1 ~11/14 □頭馬試験対策講習会開催の受験者への案内
- ☆ 11/10~11/17 □頭馬試験対策講習会受講者と講師の組み合わせ調整
- ☆ 11/18 □頭馬試験対策講習会実施
出席者 受講生 36名、講師 24名

◇センター石井修委員会(矢野委員長)

(1) 会員研修、技術士・技術士補新合格者の研修会及び合格祝賀会開催について

日時：平成2年2月24日(土)

- ・研修 13:00~17:00
- ・祝賀会 17:00~19:00

場所：福岡商工会議所(TEL 441-1111)

福岡市中央区博多駅前2-9-28(博多区新館、博多より徒歩8分)

- ・会員研修 501号室
- ・新合格者研修 604号室(機社)、603号室(機社補)

会費：

- ・研修 会員及び新合格者で入会予定者は無料
- ・祝賀会 会員 2,000円(1/2個人鮑)
新合格者 4,000円(実費)

会員研修：

- ① 編成中の機材購入による編成方法
講 黒瀬 正行 先生(建設部門)
- ② 航空写真、地形、地質等の動かせによる構図の合成
講 柏原 公二郎 先生(応用理学)
- ③ 蒸気水処理場、汚染物の再利用法
講 田島 積 先生(機械部門)
- ④ リゾート計画、レクリエーション施設(温泉・緑地園、遊園地等)の設計
講 脇 百太郎 先生(建設部門)
- ⑤ 水性リサイクルを用いた構図合成法(LPVP法)
— 構図のニューフェイス、構図生産の革新 —
講 江崎 親敬 先生(金属部門)

※ 会員研修及び祝賀会に、出来る限り多数の参加をお願いいたします。

技術士新合格者研修：

- ① 個人機材としてやって行くにはどうすればよいか 講 未定

- ② 国内企業の統合と海外展開に対する技術士のあり方 講 未定
- (3) 生き甲斐を創出する技術士の役割 講 斎藤 清美 姓
技術士補新合格者研修：

- ① 技術士から技術士へ向けて 13:00~14:20
新合格者及び未登録者の技術士補登録手続き、4年間の技術士補業務の意義、技術士第2次試験の出題と第2次試験最近の状況、質疑応答並びに指導技術士制度等について 講 未定
- ② 技術士になるための研修方法 14:20~16:20
技術士に不可欠な基本能力の養成、技術士第2次試験に合格するための研修方法 講 矢野友厚 姓、町田貞徳 姓
- ③ パネルディスカッション 16:20~17:00
指導技術士の要望、機社への要望(いずれも機社補より)

(2) 今後の技術士試験受験対策について

- ☆ 4/21(土)第1回受験対策総合講座
 - ☆ 6/9(土)第2回 " 個人指導を主とした講義
 - ☆ 6/10(日) " " 模擬試験
 - ☆ 7/28(土)第3回、直前対策講座
 - ☆ 11/17(日)第4回、筆記試験合格者を対象とした□頭馬試験対策指導
- 以上 いずれも会場は福岡商工会議所、時間は各日9:00~17:00。

◇センター活性化委員会

(江崎委員長)

(1) 活動状況

我が国産業界は産業構造の転換、内需拡大大型産業の波に乗って極めて安定した進展を続けている。殊に先端技術の開発、技術水準の向上、技術革新のテンポは早く、経済的、国際的にも注視的的となっており、その様相はまさに21世紀への胎動期にあるともいえるようである。この時に当り、我々技術士の社会的役割と使命は益々重要視され、期待と要望が強くなるものと思われるが多様化時代の広範なニーズに答えるべく、取り敢えず地域社会への繋がりや認識を一層深め、活性化を図り、なお貢献できるよう、九州地方技術士の保有技術の技術抄録を研究発表特集として刊行することを計画した。昨年8月以来各県担当の活性化委員の熱心な努力と協力により、前回の抄録と合わせ100件近くのテーマがまとまり目下編集の準備作業中である。

後は脱稿、印刷の過程を経て予定通り平成2年2月度には刊行の運びとなる見通しである。

(委員会だより一おわり)

❁ 声の広場 地区活性化だより -2- 宮崎地区

宮崎地区代表幹事 新城 精一

1. 平成元年の宮崎県技術士会の主な行事を列挙してみると以下のとおりです。

3月11日 技術士第2次試験説明会

申込書類配布(25部)

3月24日 第1回合同セミナー(熊本)

2人参加

3月26日 技術士1次試験申込書類配布(30部)

4月26日 土木学会西部支部主催「限界状態設計法講習会」を宮崎県技術士会として後援

8月25日 宮崎県技術士会発足、懇親会

11月14日 第2回合同セミナー(鹿児島)

6人参加

11月24日 支部・センター創立25周年記念式典 6人参加

12月25日 懇親ゴルフコンペ、忘年会

2. 平成2年の主な行事予定は以下のとおり。

3月19日 土木学会西部支部研究発表会(宮大)へ実行委員、座長として協力

11月頃 第3回合同セミナー(宮崎県技術士会申し合わせ事項)

- ・セミナーの発表は公共団体職員に偏らず地元の技術士も頑張る。宮崎県技術士会の発表テーマ(事例報告)「国際化と技術士の役割」「地域の活性化と技術士の役割」

- ・リゾート、学園都市、宮崎港などの整備状況の見学会の実施

・できるだけ早く具体的なスケジュールを決定し、PRに努める。

なお、合同セミナーの時にダンロップフェニックストーナメントの見学、あるいは懇親ゴルフコンペの開催を希望されるご意見があれば寄せて下さい。

3. 会員の現況は次のとおりです。

部門\種別	A	B	C	D	計
電気	1		1		2
建設	7	4	4	1	16
水道		1	1		2
醸造	1				1
農業		4			4
林業				2	2
計	9	9	6	3	27

4. その昔、轟支部長の頃、九州地方技術士センター宮崎県支部として活動していましたが、紆余曲折を経て、宮崎県技術士会として再発足することになりました。とは言いまでも、会員相互の連絡協力、親睦の域を出ていませんが、合同セミナーを契機にして飛躍の年になればと願っています。



行事レポート(1)



②日本技術士会九州支部主催

◇第2回九州地方公共団体職員と技術士との合同セミナー 実施報告

鹿児島県技術士会長 上野 光夫

◎主催 ②日本技術士会九州支部

◎後援 鹿児島県・鹿児島市

◎日時 平成元年11月14日(火) 13:00~20:00

◎場所 鹿児島市東千石町12-22

かごしま林田ホテル

◎大会の主題 「地域の活性化に必要な技術行政と技術士の連携役割」

◎司会 鹿児島県技術士会事務局

大会実行委員 上野 篤秀

◇開会の言葉 鹿児島県技術士会長 上野 光夫

県・市の協力を得て九州全域から会員が集まり開催できたことを感謝しています。本日のセミナーが県・市の今後の活性化

（行事レポート(1) つづき）

に何がしかの貢献ができることを期待し、
祈念してやみません。

- ◇主催者挨拶 九州支部長 土居 貞夫
地域の活性化に必要な行政の対応と、技
術士の連携役割が如何にあるべきかを論じ
合うセミナーとして、昨年熊本で第1回を
開き今年は第2回目である。
本日のセミナーが今後の地域発展にいく
ばくかの寄与することを願ってやみません。

- ◇来賓挨拶（知事代理として）今吉副知事
地域の活性化がいろいろな角度で論ぜら
れている現在、本日のセミナーは時宜を得
た会であり、地元として感謝にたえない。
本県も産・学・官一体で異業種間交流に
取り組んでいる。技術士と行政の密接な連
繋が大切である。いろいろな示唆を戴きた
い。

◎セミナー

テーマ1. 地域の開発について

- ① 前科学技術庁長官であった宮崎茂一代議
士が、技術士の一会員としての立場で「地
域開発の考え方」と題し、地域開発は何よ
りも地域住民のニーズに応えるというこ
とが基本であるとして、終戦直後から現在に
至るまでの開発進展の経緯を論じ、これを
基礎に今後の進むべき方向を見出すべきで
あると説明。
- ② 「県土の均衡ある発展のための長期計画
について」と題し、県企画部次長・服部喜
寿郎氏の講演。
この中で、県は国分隼人テクノポリスの
国分市に建設する仮称鹿児島頭脳センター
について民間に協力依頼することが決まり、
現在国の認可待ちである。ゴーサインが出
れば来年より着手したい。
- ③ 「鹿児島県の社会資本整備の方向」と題
し、県土木部次長・稲田 博氏が講演。
交通基盤の整備は地域のイメージを左右
するとして、道路橋梁等については県単独
で環境整備をする計画であると語り、官民
の意見の交換の必要性と技術者の積極的協
力を要請した。

- ④ 「鹿児島港のウオーターフロント開発基
本計画について」と題し、鹿児島市ウオー
ターフロント開発課長徳重芳久氏が講演、
鹿児島港に寄港する観光船の乗客が、その
まま市街地を利用出来るような隣接リゾ
ート計画を大胆に再開発。長大な南北線海岸
に沿う湾岸道路、これに接続する幹線道路
やリゾート空間、緑地等大胆な計画を立案
中である。

テーマ2. 新技術の開発と中小企業を中心 とする地域産業の活性化対策について

- ① 「中小企業振興対策」について 県商工
労働部次長・有馬 学氏が講演。仮称鹿児
島頭脳センター建設については第3セク
ターによる株式会社設立の準備を進めており、
国、県、国分市のほか民間企業役50社の出
資を見込んでいる。
- ② 「産、学、官連携と公設試験研究機関の
役割について」と題し県工業技術センター
所長・今川耕治氏は、産、学、官、産学、
学官、産官等あるいは技術開発の共同研究、
依頼研究、製品開発等の実績と方向を説明。
異業種による融合化研究等にも取り組んで
いることを紹介された。
- ③ 「発泡スチロールを主軸とする新工業製
品の開発について」と題し、日本技術士会
前副会長、長崎大洋技術開発社長・黒瀬正
行氏は次のように講演。発泡スチロールは
11t/m²で土よりも締まっており工事用の重
機類も必要でない特性に着目。ノルウェイ、
アメリカAMI社と技術提携し、軟弱地盤
の土質改良、高盛土の盛土材利用、更に水
上浮体構造物、浮道路、浮作業台等に利用
でき、或るいは使用実例を説明された。
- 最後に「地域の活性化に必要な技術行政
と技術士の連携役割」のまとめ的考察とし
て、九州支部副支部長 原井東男氏は、地
域の活性化についてマクロ的考慮とミクロ
的提言を行い、行政と技術士のかかわり
について
- (1) 時代の流れと技術士の制度を論じ
 - (2) 行政の役割
 - (3) 行政と技術士との役割連携方策

ノ (4) 柔らかな頭と遊び心とゆとりが発想の転換を呼ぶことを論じ、最後に職域の創出と職業意識に徹しなければいけないことを、8月22日大分市で開かれた国際シンポジウムにおける平松知事、江崎レオ博士等の提言を利用して講演された。

◇閉講の挨拶 支部事業委員長 笠木 直行

◎特別講話 「世界一周ヨット一人旅」
講師 迫 正人 先生
昭和53年鹿児島を起航、アメリカ・シアトルを南下、南米よりヨーロッパを巡り、各地で生活費、旅行費を稼ぎながら、8年目に無事帰国された県出身の同氏の興味溢れる旅行談が約1時間行われた。屈してやまない旺盛

なチャレンジ精神と強い信念があれば、必ずやり通せることが出来るという体験談を興味深く、しかも強い感銘を与えられた講話であった。

◎懇親パーティ

先ず開会の言葉を鹿児島県技術士会副会長 稲田 博が述べ、市長代理として駆けつけた鬼塚収入役が来鹿した県外会員に対する歓迎の挨拶を述べた後、本日のセミナー参加者に対する謝意を表すため、さつま神刀自念流の免許皆伝である上野光夫会長が自ら頼山陽作の「本能寺」を勇壮に祝演舞した。

次いで来年の当番県宮崎県の新城会長と鹿児島島の稲田副会長が、土居支部長を交えて壇上で固く握手。土居支部長の音頭で乾杯、官民賑やかに歓談、定刻20時盛会裡に終宴した。



行事レポート (2)



◇九州支部ならびに九州地方技術士センター 25周年大会記念式典に参加して

大会実行委員 重富 秀雄 (経営工学部門)

11月の九州博多の街は、一年中を通じて味を楽しみ街並みを歩くのに最高の季節である。

11月24日、センターザ博多に於て、九州支部25周年記念式典が行われ、上田会長始め本部役員、各支部長のご参加を頂いた。地元各界の来賓及び招待客も30数名、式典も盛大に終わることが出来た。

記念講演は、九州通産局、田中耕太郎課長補佐の「21世紀に向かって九州地域産業開発のビジョンについて」と題して、アジアに向かって”九州は一つ”のスローガンを高く掲げ、技術開発のアジアの拠点としての位置づけを豊富なデータを基に1時間40分の講演をお聞きすることが出来た。また、西日本新聞社解説委員長、益田憲吉先生は、「最近に於ける政局、これからの経済展望」と題して独特のポーズと痛烈な政治批判、それに最近の社会情勢を踏まえた得意の弁舌は出席者全員に深い感銘を与えた。お二人の講演を聞き私達は九州男児の質実剛健の気風を今こそアジアのリーダーとして発揮すべき時ではないだろうか。

祝賀パーティでは、鹿児島地区代表幹事の 上野先生の気迫溢れる剣舞が披露された。歓談の席では、技術士のそれぞれの立場から近

況をお聞きすることが出来たが、一部の方々の官庁とのかかわりを除き、独立技術士としては決して恵まれていない現状であることを痛感した。式典当日の午後1時より、NHK福岡から全国ネットで土居支部長と放上博アナウンサーの”技術士会の現状について”の対談が7分間放送された。式典の始まる前に行われた中・四国支部との懇談会の席上で、土居支部長がNHKのインタビューに際して、技術士という職業が世間一般に余りにも知られていないことに驚いたと報告があった。”技術士”のPRには、中央も各支部も積極的に取組む必要があるのではないだろうか。

独立技術士として第一線で活躍しておられる方々にはその立場から益々PRして頂きたいと思うし、中央と支部との情報の伝達をスムーズに、より効果的に、支部内での技術士仲間が仲間意識を今以上に意識し、思いやりの心でお互いの仕事を助け合い、協力し合うことが出来たらどんなに素晴らしいだろうと思う。

大会式典を節目として、九州支部が大きく外に向かってはばたく元年としたい。



◇吉野ケ里遺跡視察記

佐賀県技術士会代表幹事 向井 治孝

11月25日、昨日の九州支部及びセンター発足25周年記念大会を終えて、全国の各支部長先生、中・四国・九州支部会員の諸先生方34名、午前8時博多駅前集合、貸切りバスで一路晩秋の肥前路を、佐賀吉野ケ里へ向かう。澄み切った秋空のもと、背振山麓の杉の木立の緑、炎えるような柿の朱、高く低く点在している银杏の黄色の織りなす景色は肥前路ならではの見事な景観である。

先人たちがこの地を集落地に選んだのは、気候温暖にして当時現在よりずっと内陸部であったであろう有明海沿岸、田手川、城原川の舟運に恵まれ、周辺に広大な農耕地となる平地、北部地区には豊富な森林地帯を控えていたからだと思う。

人が目をつける地形というものは弥生時代も今も変わらないようで、私自身20年程前、佐賀県庁在任中、空港計画を担当したが空港建設地の適地を選定中この地が目につき、地形を調べたことがある。最終的には空域が狭かったので取り止め、まぼろしの吉野ケ里空港に終わったが、この様に非常に魅入られる地形である。その時もっと地史的な面まで詳しく調査をしていたら、或るいはもっと多くの資料が得られたのではないかと残念に思っている。

集落地跡地は小高い丘となっており、ここからの展望は素晴らしい、西南方は収穫を終えた佐賀平野が広く広がり、その先に有明海がある。北側は広い田園の彼方に日の隈山、仁比山の山々が美しく聳え、その向こうに背振天山の連峰が走っている。この付近一帯は多くの貴重な遺跡が点在して、長い歴史を秘めた地域で、何となく現世を離れた荘厳さを感じる。

この吉野ケ里遺跡は魏志倭人伝の記述に合致し耶馬台国論争に一石を投じた。

倭人伝に「宮室、楼観、城柵、厳しく設け常に人あり、兵を持して守衛す」「租賦を収むるに、邸閣あり」とある。

吉野ケ里遺跡は、延々と日本最大外濠に囲まれた集落と、更に内側に濠があって、その内側に集落がある。即二重の環濠集落を形成

している。この集落跡に竪穴式住居跡があり4棟復元されていた。家の内部には炉がはかれ、階段は一本の木材を段形に切り欠いたものを取りつけてあり、当時の生活状態を興味深く偲ぶことができた。

この集落の入口のところ濠が半円形に外側へ突出している部分に、楼観の跡の柱穴が6つ掘り出されていた。現在はこの柱穴を保存するため少し位置をずらして、6本の大きな丸太を柱とし桁を「ほぞ」によって組立てて2棟復元されていた。非常に頑丈な造りに驚いた。おそらく敵の防衛だけでなく、台風などにも十分に配慮されていたものと思う。

濠を掘った土を外側へ盛土して土塁としその上に城柵を設けて敵の進入を防いだ。即ち濠は土塁の内側にある。後年の築城はこれとは逆に濠を掘った土は内側へ盛土し土塁又は石積を築き濠は外側に配した。この方が防衛上都合がよかったと思われるが、ここでは何故濠を内側にしたのだろうか。或るいは内水の排除と用水等に利用のためではなかったのだろうか。

外濠の外側には高床式倉庫群があった由で現在2棟復元されていた。これは租税として徴収した穀物、その他を集積する倉庫で倭人伝の「邸閣」を指すものと思われる。

北部の丘陵に墳丘墓がある。6基のかめ棺が埋葬されており、中央の1基は特に大きなかめ棺で族長のものらしい。それを中心に放射状に他の小かめ棺が配置されている。墓の構造が版築法になっているが、これは中国の影響を受けているとのことである。

現在、仮の覆屋が建てられているが本建築の時は、墓を足下にしない見学路とし、室内に礼拝所を設けて祖霊を祭る霊場の構造にすれば遺構の重みが一段と増すのではなかろうか、又、これとは別に2千数百墓のかめ棺が丘陵の尾根つたいに縦列に整然と埋葬されている。

族長が墳丘墓、一般の人々が縦列墓ということだろうと思う。2千年近い眠りから覚まされ、現代人の騒ぎぶりを、かつての吉野ケ里の人々の祖霊に対し、心から謝意と崇敬の心を持たねばならないと痛感した。

(行事レポート(3) つづき)

展示館には、有柄銅剣やライトブルーに輝く多数の管玉など豪華な出土品が陳列されていた。倭国の有力豪族の品だろうと推定されている。

伝承も残さず消え、現在によみがえった吉野ケ里の跡を魏志倭人伝に戻って、想像力を

膨らませ、古代のロマンを求めつつ、有益な視察を終えた。

近くにある大島屋で中食・歓談の後、午後1時、名残惜しく吉野ケ里を後にした。

万感を胸にふくめて秋晴れの肥前路を博多に向けてバスを走らせた。

※随想 受験対策講習会への想い

久保田 信一 (建設部門)

”教えられるよりも教える方が難しい”とは、かねてから自覚していた。

自分がどうか技術士2次試験に合格できたのは、九州地方技術士センター主催の受験対策講習会を2か年にわたって受講したお陰であると考えている。受講生の立場にあっては、自身の弱点と思惑違いの発見克服を主体に、積極的な質問を施して十分に活用できたように思われるが、諸先生方の誠実で熱心なご指導ぶりに感激した印象を今も鮮明に思い出す。こんな小生へ、合格翌年の平成元年度講習会での体験談及び個別指導の要請があった折には正直いって戸惑いを覚えた。個別指導に自信を持てなかったからだが、センターへの恩返しへの念も働き、受講生個別指導の

立場を引き受けることにした。僅か6名だったが、合格へもう一步の受講生の他、技術士制度への理解不足や作文能力向上を要する人など、様々なレベルがあることと、受験対策勉強の進捗度に相当な個人差があることを知らされた。各人の現時点能力に応じた最善勉強法を力説指導していったが、筆記試験講座を終えた今では如何程に役立ったであろうかと疑問を抱かずにはおられない。

回を重ねる度に減っていく受講生も見られ、教えることの難しさを改めて認識した。そして私自身は、貴重な勉強の機会を得たようにも思われ、絶え間ない研鑽を技術士の命題として向上心を忘れないでいきたい。センターと諸先生方に謝意を表し、ご発展を祈り上げる想いである。 以上



会員ニュース



☆他日本技術士会(九州支部)入・退会

(区分)	(地区)	(氏名)	(職種)
入会	福岡	糸乗 貞喜	建設
"	大分	佐藤 全良	農業
退会	福岡	岡崎 勝	建設
入会	長崎(轄)	原田 敏彦	水道
"	北九州	大石 雅也	建設
"	熊本	小島 義博	衛生工学

☆九州地方技術士センター入・退会

入会	熊本	正領 光江	林業
"	福岡	" 太田 泰壽	建設
"	"	" 小宮 信行	水道
"	"	" 藤井 利治	"
"	"	" 上野 勉	建設
"	北九州	" 辻 清次	"
"	福岡	" 大丸健之助	水道
"	北九州	" 延寿 忠雄	電気

☆九州地方技術士センター入・退会(つづき)

入会	福岡	正領 柴田 陽一	建設
"	"	" 岩下 任氏	農業
"	熊本	頼野 澤 仁志	"
"	北九州	正領 大石 雅也	建設
"	福岡	" 佐野 収	"
退会	"	" 油田 敬吾	応用理学
"	"	" 竹内 登一	機械
入会	"	" 濡木 久	建設
"	大分	" 箱田 信幸	応用理学
"	熊本	頼 江山 鳳東	建設
"	福岡	正領 弓削田耕一	水道
"	"	" 江口 英治	"
"	"	" 内田 孝	建設
"	鹿児島	" 池田 富男	応用理学
"	北九州	" 日高 武彦	建設
"	福岡	" 田辺大三郎	"
"	"	" 西村 十一	"

☆九州地方技術士センター入・退会(つき)

入会	鹿児島	正領	有川 幸秀	建設
"	熊本	正領	加来 英器	"
"	福岡	"	森田 徹	水道
"	熊本	正領	奥村 宗隆	建設
"	北九州	正領	田中 信男	"
"	福岡	"	三原 節夫	水道
"	"	"	吉川 正	建設
"	佐賀	"	山本 修	"
"	福岡	"	古賀 尚武	農業
"	佐賀	正領	島内 明	建設
"	福岡	"	矢野友一郎	"
"	"	正領	田村 陽右	衛生工学
"	"	"	小倉 驍	建設
"	"	"	黒川 邦夫	"
"	長崎	"	犬束 洋志	"
"	"	"	辻 和毅	応用理学
"	"	"	和田 義昭	衛生工学
"	"	正領	森 博史	建設
"	"	正領	高橋 保夫	"
"	"	"	川崎 迪一	"
"	"	"	園尾 恭司	"

—以上受付順、敬称略—

◇会誌”技術士”最近号の主要目次◇

☆11月号

- ・第19回日韓技術士会議を終えて
- ・新しい化学繊維 TENCEL / 野瀬恭平
- ・バカテル(1) / 横山良一

☆12月号

- ・第9回地方公共団体職員と技術士との合同セミナー報告
- ・技術士全国大会報告
- ・フラインセラムミックスの最近の技術動向 / 武本博臣
- ・半導体用高純度ポリシリコンの製造技術 / 藤井裕二

☆'90 1月号

- ・提言 会員1万人増加運動に総力を結集しよう / 前田 勇
 - ・私の技術士業務 海外業務に技術士は、いかにアプローチすべきか / 鈴木 清
 - ・職のページ 中小企業のコンサルティング / 西森克己
- ☆1月臨時増刊号 バイオテクノロジー特集

☆会員勤務先および連絡先変更

1. 長谷川 盛一 (建設)
勤務先 〒810 福岡市中央区清川3-14-7
共進建設(株) TEL (092) 524-0666
連絡先 〒818 筑紫野市大字原750-87
TEL (092) 022-9163
2. 鎌田 正輝 (建設)
勤務先 〒810 福岡市中央区白金1-1-3-203
阿部建設(株)福岡出張所 T. (092)531-8401
3. 水上 信照 (建設)
勤務先住所 〒810 福岡市博多区博多駅東
3-1-1 NORITZビル福岡6F
TEL (092) 473-0641 FAX (092) 431-5331
4. 保澤 與 (建設)
勤務先 〒830 久留米市東合川3-7-5
(株)高崎総合コンサルタント
TEL (0942)44-8333(代), FAX (0942)44-8838
5. 藤本 啓 (水道)
勤務先 〒890 鹿児島市鴨池新町21-3
大協株式会社
6. 加藤 正司 (建設)
勤務先 〒892 鹿児島市名山町1-3-47 観鶴ビル
(株)南日本技術コンサルタント
TEL (0992) 26-2468
7. 郡山 匡良 (農業)
勤務先 〒890 鹿児島市鴨池新町21-1 佃ビル305
アジアプランニング(株)鹿児島支店
TEL (0992) 59-0255
8. 高橋 興一 (金属)
勤務先 大韓民国 慶尚南道 新村洞69番地
三星重工業(株)機械事業本部 (關誠社)
住所 大韓民国 慶南昌原市 磐林洞
現代APT. 211棟504号

◇編集後言己

もう3号になります。ページ数も級数的に増えて、機関紙が、やっぱり機関誌になったのかと思います。今後も皆様のご協力を頂き一層充実した紙面にしたいと思います。(小)

★投稿を募る★技術士の主張・賛助会員(会社)の紹介など、技術的または一般的な意見について、皆さんの投稿を募ります。(1編400~600字程度、事務局宛)

発行 (株)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター / 〒810 福岡市中央区天神1丁目12-61 観鶴ビル402 ☎(092)771-9534 編集 総務委員会